

議 事 録

件 名		令和6年度 第3回 久留米市男女平等推進センター運営委員会
日 時		令和7年3月25日（火） 14:00～15:35
場 所		えーるピア久留米 301・302 学習室
出席者	委員	堀田委員、矢ヶ部委員、近藤委員、佐藤委員、寺崎委員、酒井委員、松本委員、永松委員、樋口委員、伊崎委員
	事務局	酒井、大場、菅山（男女平等推進センター）
	ワザハバ	高口、水落（男女平等政策課）
欠 席 委 員		末崎委員、中尾委員、笠委員
傍 聴 者		0名
配 布 資 料		■ 次第 ■ 【議事（1）】 令和6年度事業報告について - 施設の利用状況（1月末現在） - 事業実施概要（2月末現在） ■ 【議事（2）】 令和7年度事業計画（案）について ■ 【議事（3）】 男女平等推進センターにおける課題と今後の対応について
議 事 内 容		
1 開会		
2 議事		
(1) 令和6年度事業報告について ・施設の利用状況（1月末現在） ・事業実施概要（2月末現在）		
(2) 令和7年度事業計画（案）について		
(3) 男女平等推進センターにおける課題と今後の対応について		
3 その他		
4 閉会		

議 事 内 容

【質疑応答】

議事（１）令和６年度事業報告について

（委 員）【ブックタイムについて】

自治体によっては職員が読み聞かせを行ったり、ボランティア団体の読み聞かせの人が来てすることがあると思うが、久留米市の取組はどのようなものか。

（事務局）どちらかというと子より親向けの事業である。子育ての大変な時期に託児付きの会場で子を預け、自分一人で本を読んでいただく機会ということで実施している。子といっしょに本を読み聞かせたり、職員が読み聞かせたりという事業も必要だと思っている。いただいた意見は参考にしたい。

（委 員）【ブックタイムについて】

参加定員が１０人となっている。参加者のリピート率を教えてください。また、この事業は常に８割９割の利用があるが、新規率を増やすために開催回数を増やすことを考えているか伺いたい。

（事務局）定員より参加人数が少ない要因は、子の急な発熱などによる当日キャンセルなどである。定員については席数の関係もありこの人数までと思っている。保育士の手配状況等もかんがみながら考えていきたい。令和７年度は令和６年度と同程度で実施したい。リピート率については手元に資料がないが、久留米市公式LINEに投稿をするようになってから、新規申し込みが増えている。ただ抽選のため、リピート率は実施回ごとに異なる。

（委 員）【ブックタイムについて】

応募数なども伝えた方が、事業の評価につながると思うので、出せる範囲で委員の皆さんに伝えてほしい。

（事務局）承知した。

（委 員）【施設の利用状況について】

市民ギャラリーと調理実習室の利用が前年度と比較して増えているが、考えられる理由は。

【相談員の相談件数等について】

相談員の相談件数は８月から前年実績を割っている月が多い。電話相談はほぼ割っている。面接相談は８月までは前年実績を上回っているが９月からは下回っている。何か原因があれば聞きたい。

【国際女性デー事業の感想】

国際女性デー３月９日の講演について、１時間以上は国連ハビタットの説明。その後は発展途上国の女性たちが抱える不平等の問題だった。参考にはなったが、これを基礎講座に位置づけたのはどうかと思った。基礎講座とはもっと足元の問題、地元の問題をやったほうがよいという感想を持った。

【こころのケア講座について】

ほぼ定員近い参加があるが、参加者は相談者が多いのか、一般的なのか、割合を教えてください。

（事務局）【施設の利用状況について】

調理実習室の主な増要因はフォーラムである。出店数は同じだが、調理実習室内で食事をとってもらったため利用件数が増えたもの。市民ギャラリーは稼働率が上がっている。登録団体が活用したことも人数増につながっている。

【相談員の相談件数等について】

減の理由は分析できていない。しかしながら、令和4年度と比較すると急激に減っているわけではない。高止まり状況である。令和6年度は、令和5年度より少ないが令和4年度よりは多い見込みである。

【こころのケア講座について】

男女平等推進センター相談員は講師資格を持っており事業を実施している。一人一人個別でワークを行っている、参加者については、相談員が相談者を誘ったりするケースや、公開講座のため通常の申し込みで来ることもある。印象としては半々くらい。

議事（2）令和7年度事業計画（案）について

（委員）事業計画について、男女共同参画のまちづくりや市民協働のまちづくりは推進しなければならないと思うが、事業の選定にあたり、市民からの公募などは行っているか。

（事務局）事業計画案の中に市民活動という部分がある。ここに市民グループ広報企画というのがあり、こちらで市民が企画した講座を申込いただき出来るようになっている。今年度実施しており、来年度も実施予定である。

（委員）男性のための電話相談について、男女平等推進センターが行う特色や1回が2回になることの周知についてお尋ねしたい。

（事務局）男性のための相談窓口は市のいろんな部局にあるが、センターではジェンダーに起因する悩みを受けるということで設けている。回数を増やす周知については現在、JR 久留米駅、西鉄久留米駅、久留米市役所などのトイレに案内を置いている。広報については課題があると認識しており、今後考えていきたい。

議事（3）男女平等推進センターにおける課題と今後の対応について

（委員）今話を聞いて、大変厳しい勤務状況だと思った。夜間1人勤務は安全面でも大変だと思う。全体の人数も少ない。どうにかならないのか。相談員も増やしてほしい。こういう話は市に言えばいいのか。

（事務局）こういった状況の中ではあるが、新たな事業をやっていく時間を生み出していきたい。市職員はどこの部局も人が足りていない状況のため、簡単には増えない。どうやって時間を生み出していくかを考えてみたい。

（委員）勤務状況について、これだけ働き方改革とかいう話がされている中、本当に必要かといった検討をした方が良い。この話は男女平等推進センター内のことだが、建屋そのものはえーるピアとして機能しているので、建屋内の他部局との組み合わせで、夜間の必要性が貸室の対応レベルであれば鍵の問題だけなのか。そうであれば必ずしも職員が夜いないといけないのかということところが、緊急対応も減っていく中で、どうなのか考えてはどうか。
なおかつ、久留米警察署に一番最初に動いていただけた時代になったのであれば、夜間勤務の必要性はよく検討した方が良いのではないかと。日中に職員配置のウェイトを置いたり、グループウェアを活用するなど、必要な時間に人を配置する検討を早くした方が良い。建屋を共用している組織同士の横の連携について検討いただきたい。

（委員）私はまちづくり連絡協議会から選出されているが、まちづくりでは委嘱学級がある。委嘱学級では男女平等の講座を年1回入れるように言われているが、講師選択にどこも悩んでおり最終的には男女平等推進センターにお願いすることも多い。まちづくり連絡協議会でも何回も講演してもらっているが、それが本当に浸透しているかというところと浸透していない。令和7年度、女性会長は現在ろうじて3人いるが、次は2人になりそうな状況である。意識改革ができていない。講演もしてもらっているが、男性会長に浸透していくのかなというのが課題。夜間の職員の話があったが、コミュニティセンターや各施設においては職員がいる時間中に所用については来てもらい、職員不在後のカギの受け渡しなどはシルバー人材センターにお願いしているところが多い。だから果たして職員がいなければいけないのかというのは検討課題だと思う。課

題は多い。男女平等やジェンダー平等は難しく、まだまだ時間がかかると思うが、頑張っていたきたい。

(委員) 全体的に言える事だと思うが、例えば講座の新規参加者が少ないとか、40代以下の割合が少ないので増やさないといけないということは資料に載っているか、そこに参加する人たちのニーズはきちっと捉えているのか。数字は見えるが、背景がこの資料からは見えてこない。登録団体が減っているとか、高齢化しているとかは分かるが、若い人たちがなぜ団体登録してこないのか、登録しにくい現状があるのかどうかとか分からない。そこにメリットがないと人は動かないと思う。現状分析はしているのか。また、センターで仮説を持っているのか。仮説に基づいてどんな行動をとるというのか説明してほしいと思っていた。人手の問題もあるので、力を集約して伸ばした方が全体的な男女平等が進むのではないかと思った。もしかしたら分散しているのではないかと思った。仮説みたいなものを持っていれば伺いたい。

(事務局) ご指摘のとおり、講座を開催しても参加者のニーズに沿わなければ全然人が来ないことになると思う。分析としては、例えば子育て団体などを新規団体として呼び込もうとした際に、子ども未来部との連携が取れていないため、団体登録のメリットの周知が行き届いていないところがあると思われる。そこで、子ども未来部と連携し、子ども未来部が把握している子育て団体などにアクセスしながら、ニーズを把握しながら改革を進めていく必要があると考えている。それから、対象を分散するのではなく、1つに集中してやっていくところも大事だと思うので、ご意見をもとに、仮説に基づく分析を行い、委員会の中で委員のご意見を伺いながら進めていきたい。

(委員) 2人の委員からあったように、もう少し事業を精査すべきだと思う。アウトリーチを拡充するということは、ちょっと分散しすぎと思う。センターは拠点施設なので、もっと身近なところで市民がひとり親家庭の貧困、労働分野でまだ女性が差別されていることなどに気づくような講座をしたらおのずと参加者が増えると思う。アウトリーチを増やさなくても、そういう部分に傾注してほしい。フォーラムもすごい労力をかけていると思うので、もっと縮小してもよい。講演と映画プラスアルファくらいでないと厳しい。それと職員体制の中で、啓発講座がある土日にほぼチーム全員を配置するという説明に驚いた。全員配置する必要があるのか。このあたりをもう少し考えていただき、土日に少しでも休んで、平日を充実するよう検討してほしい。

(委員) 管理運営については、マンパワーが不足しているように感じる。例えば市民ボランティアの活用を検討するとか、行政だけのマンパワーだけでなく、地域の力やほかの団体の力をうまく活用していかなければならない時代に入っていると思う。もう一つは、処遇改善として人員不足など、労働組合の交渉テーブルに乗っていると思うが、条件として取りやすいところを増やしていくような、自助努力の取り組みもしてはどうかと思う。

(委員) 感想だが、年間の事業数、イベント数がすごく多いと感じる。講座も堅い話が多い。学習に力が入っていると、自分が若いころの目線で見ただけの場合は、近づくには難しいかと思う。ちょっとした遊び心のあるような事業を考えてはどうか。行政の事業であり、制約があるとは思いますが、高齢化社会に向けた目線の部分と、若い層にはもっと取っつきやすい表現だったり、企画をした方がよいと思う。団体をすごく意識しているようだが、団体を構成するのは「個人」である。「個人」が参加しやすくなる目線も必要ではないか。私の子どもの世代は、男だから、女だからという意識した目線はあまりないようで、逆に事業名に「男女」が付いていると近づくなくていい事業だと思われるのではないかと心配している。このあたりをもう少し柔らかくしても良いのではないかというのが率直な感想である。

(委員) 本当にいろいろな講座をしているのは分かっているが、大学生、子育て世代、高齢者などいろんな世代の人の話を聞く必要があると思う。

(委員) 去年フォーラムで大学生、高校生が発表したがとても新鮮だった。また、サポーターで地域を回っているが、年配者と若い人の感覚が異なっているのを感じる。自分の夫は家事をしないが、息子世代の若い人は家事をするという声を聞く。若い人の捉え方の感性では平等というところだ。本当は平等ではないのだが。本当に平等なのかどう

かをもうちょっと掘り下げていくことも必要ではないかと思った。

- (委員) 生まれ育ってきた文化みたいなものがあり、人はそんなに変わらない。変えようとする
と抵抗にあうような気もしている。でも、世代間で触れ合う機会があったりすると、
ここの感覚が緩んでくるような気がしている。例えば、自分はこの会議にもなかなか
参加しにくいという感覚が実はあった。なぜかという「女性」というものが強いイ
メージがあったから。講座名についても、「女性のための」とか「男性の相談」という
名称がついていると、そのグループ以外の人がすごくはじかれた感覚になるのではな
いかと思っている。団体間の交流など、価値観がほぐれていくようなことがあれば平
等に近づいていくと思う。
- (委員) 私は学校の教員である。若い学生がたくさんいるので、学生のアイデアを募って、く
るめフォーラムの企画などをさせてもらえたらいいと考えている。それから労務関係
についてはだいぶしんどいと思われるので、無料の生成 AI などを活用し、市の職員で
共有し、人間がしないといけない企画の吟味などを人間の力でしっかりとやればより
効率的にできると思う。
- (委員) 市の労政課や子ども未来部との連携をしっかりとやってほしい。大学とのつながりにつ
いて、今はほとんどできていないので進めてほしい。久留米では、若い女性が男性よ
りも人口流出が多いという結果が出ている。そこに焦点を当てた学習内容も考えてい
く必要がある。それから、えーるピアでロビーを見ていると、若い女性や子ども連れ
の人が多く見られる。その人たちにセンターをどうアピールしていくか。この講座を
聞いてほしいと思った時などには、職員が事務室を飛び出し、声かけをするとか、そ
ういった具体的な方法も考えていくことが必要ではないか。また、この建物が建った
時に、男女平等推進センター管理部分の部屋は研修室と名称をはっきり変えている。
そこには男女平等を進めていくという願いが込められている。やはり、男女平等を進
めていくためには自分たちが研修していき、地域を変えていくことが重要だと考える。
久留米市の財政状況を考えると、人は増やせないと思う。センター内で努力して見直
していくことが必要。また、民営化についてはしてはいけない。ここは女性の人権の
ためにできた施設であり、民営化されるとその人権という部分がないがしろにされて
しまう。生涯学習センターは、市直営の時と比較して人員が減っている。民営化につ
ながらないような取り組みを続けていく必要があると思っている。

その他

質疑なし。

【質疑修了】